

出願資格

以下の1～3の条件をすべて満たしていなければなりません。

	A方式	B方式
1	次のいずれかに該当する者。 (a) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者、および2026年3月卒業見込みの者。 (b) 高等専門学校の第3学年を修了した者、および2026年3月修了見込みの者。 (c) 学校教育法施行規則第150条にある高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者、および2026年3月31日までにこれに該当する見込みのある者。	次のいずれかに該当する者。(*2) (a) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者、および2026年3月卒業見込みの者。 (b) 高等専門学校の第3学年を修了した者、および2026年3月修了見込みの者。 (c) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程または相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者、および2026年3月31日までに修了見込みの者。
2	慶應義塾大学法学部(法律学科または政治学科)への志望理由、および入学後の目標と構想が明確であり、第一志望としていずれかの学科での勉学を強く希望する者。また、合格した場合に入学することを確約できる者。	
3	学業を含めたさまざまな活動に積極的に取り組み、次に例示するような優れた実績をあげた者。(*1) (a) 日本語以外のさまざまな外国語の学習に熱心に取り組み、かつその成果を検定試験などで証明できる者。 (b) 文化・芸術・技芸・運動等の分野において優れた成績や成果を残したことが証明できる者。 (c) 学外活動や課外活動において高いリーダーシップを発揮し、そのことが何らかの形で証明できる者。 (d) ボランティア活動や地域の社会的活動などを熱心に行い、その実績を示せる者。 (e) 国際交流や開発途上国援助などの活動に積極的に取り組み、その実績を示せる者。 (f) 入試科目に限らない全般的な学業分野で極めて優秀な成績を収めたことを示せる者。 (g) その他の分野で、自己の関心や興味からユニークな実績をあげたことを証明できる者。 *1 実績や外国語能力を証明できる証明書、修了証、表彰状などがある場合は、提出してください。詳細は「募集要項」で確認してください。	次の条件をすべて満たす者。 (a) 在籍している、もしくは卒業した高等学校等より、調査書の発行を受けられる者。 (b) 高等学校等での学業成績が優秀で、高等学校等の全期間の成績を記載した調査書における指定の各教科(外国語、数学、国語、地理歴史、公民)および全体の学習成績の状況が4.0以上の者。(*3) (c) 在籍している、もしくは卒業した高等学校等に現在在籍している教員より1通の評価書(本学所定用紙)を提出できる者。 *2 B方式においては、外国の高等学校の卒業(見込み)者、高校卒業程度認定試験(大学入学資格検定を含む)の合格者および科目合格者は出願できません。 *3 卒業見込み者は第3学年1学期までの成績が記載された調査書(2期制の高等学校等の場合は、第3学年前期までの成績が記載された調査書)を提出してください。何らかの事情により、第3学年1学期(2期制の高等学校等の場合は第3学年前期)の成績を記載できない場合は、その旨が調査書備考欄に記載されていることが必要です。 なお、高等学校等のカリキュラムや留学・編入学等の事情により、該当する科目について不明な点がある場合は、入学センターにお問い合わせください。

選考方法と日程

	A方式	B方式
出願期間	次の①および②を行うことにより出願は完了します。一方のみでは出願は受け付けられませんので注意してください。 ①「出願登録(インターネット)」および「入学検定料の支払」▶2025年8月1日(金) 10:00～9月3日(水) 17:00 ②「出願書類の郵送」▶2025年9月1日(月)～9月3日(水) ※締切日消印有効(速達・簡易書留)(海外からの出願は締切日必着) 注:出願に関する詳細は「募集要項」で確認してください。	
第1次選考内容	書類選考[提出された書類を総合的に精査して選考を行い、第一次合格者を決定します]。	
第1次選考合格発表	2025年9月16日(火) 10:00 インターネット	
第2次選考	法律学科・政治学科ともに 2025年9月20日(土) 三田キャンパス	法律学科・政治学科ともに 2025年9月21日(日) 三田キャンパス
第2次選考内容	(1) 論述試験 教員が模擬講義を行い、講義後に論述形式の試験を行います。試験では、法律学ないしは政治学の修得に必要な理解力、考察力、表現力などを評価します(両学科とも同時に同一の内容にて実施します)。 (2) 口頭試問 複数の教員と1名の受験生で、口頭で与えられたテーマについて質疑応答を行い、受験生の学問的な理解力や知的表現力などを考査します。今年度から、開始前の自己紹介の機会は設けません。	(1) 総合考査 Ⅰ 与えられた資料(グラフ、表、データ、条文、判例など)から読み取れることを400字程度にまとめてもらいます。社会科学に必要な論理的な思考力、考察力を評価します。 Ⅱ 与えられたテーマのもと400字程度の小論文を書いてもらいます。ここでは、創造力、独創性、発想力を考査します。 (2) 面接試験 個人面接を行います。
	各方式におけるすべての選考で好成績を収めた者のなかから、A方式・B方式を合わせて、法律学科・政治学科それぞれ最大80名に入学を許可します。 注:選考内容に関する詳細は「募集要項」で確認してください。	
第2次選考合格発表	2025年11月4日(火) 10:00 インターネット	

Keio University



詳しくは
慶應義塾大学ウェブサイト入学案内ページ
<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/>
をご覧ください。

慶應義塾大学入学センター
〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45
TEL 03-5427-1566(入学センター直通)



FIT入試2026

—— 教えたい、学びたい ——



慶應義塾大学
法学部

Keio University
Faculty of Law

—— 教えたい、学びたい ——

慶應義塾大学法学部の

FIT入試

在学生インタビュー



この学生を「教えたい」という教員と、慶應義塾大学法学部を第一志望として、そこで「学びたい」という学生との間の良好な相性(fit)を実現するFIT入試。
画一的評価にとらわれず、異なった能力・経験を評価する、人物本位の選抜方法であるFIT入試に挑戦して、現在は法学部生として大学生活を送っている在学生にインタビューしました。

慶應義塾大学法学部を志望した理由は？

加藤 | 法学部の理念である「スペシャリスト兼ジェネラリストの育成」に最も強く惹かれました。外国語科目や人文科学科目を通して身につける広い教養と、法学部ならではの学びで得る専門性を将来のあらゆる分野で活かせると思いました。

竹崎 | 充実したカリキュラムと自由度の高さから志望しました。何事も基礎を徹底することで大成すると考えます。1、2年の間に礎となる学習を安定させることが、知識を確かなものにしたいと思います。

時々輪 | 法学的知識を深めながらも、言語・自然科学・人文科学を学び、自分の視野をより広げることができると考えたからです。「主専攻に加えて第2の専門を持つ個性派学生を育てる」という理念がまさに体现されていると思います。

菅原 | 私は、安全保障論や国際政治理論、国際関係学について学び、世界で活躍されている先生方のハイレベルな知識を吸収したいと考えました。専門知識とともに幅広い学問分野の総合知識を横断的に学べることも非常に魅力的でした。



政治学科

菅原 淳 (すがわら あつし) さん

岩手県立一関第一高校出身

FIT入試に挑戦しようと思った理由は？

加藤 | 高校まで自分が努力してきたこと、勉強や部活動、課外活動などの経験を総合的、多角的に評価してくれるのがFIT入試なのではないかと考えました。面接を通して「慶應義塾大学でしか

できない、この学びがしたい」という将来設計を主体的に伝えられるのではないかと考えたこともFIT入試を選んだ理由の一つです。

竹崎 | FIT入試の魅力は、各々の受験生の志望に対する熱意を伝えやすい点であると考えます。最低限の学力はもちろんですが、慶應義塾大学法学部を志望する熱意を直接伝えられると考えたので、FIT入試を選択しました。

時々輪 | 高校の時にバトントワーリング部に所属しており、全国大会に何度も出場していたので、この活動を活かせる入試こそがFIT入試なのではないかと考えました。

菅原 | FIT入試は学力やテストの結果だけではなく、学生の個性を重視する入試だと理解し、私の海外に滞在した経験や、部活動で県大会や全国大会で上位の成績を収めた経験をうまく活かせるのではないかと考えたからです。

どのような準備をしましたか？

加藤 | 志望理由書や面接では、「私が努力してきたこと、私にしかできないこと」をいかに具体的に伝えるかということを意識しました。

竹崎 | 私は自分がしたいことを明確にすることに注力しました。自分で納得ができるまで、志望理由書を書き直し、パンフレットを読んで、できる人は、大学まで足を運んで、自分の中で、「慶應義塾大学に行きたい」という強い気持ちを持てるかが大切なと思います。

政治学科

加藤くらら (かとう くらら) さん

甲南女子高校出身



高校までどのように過ごしていましたか？

時々輪 | 週6回、朝から夜までバトントワーリング部の練習をしていました。勉強の時間を確保するのが本当に大変でしたが、全国大会に出場するという貴重な経験することができたので、自分の人生においてとても大切な3年間だったなと思っています。



法律学科

時々輪 奈月 (じじわ なつき) さん

愛知淑徳高校出身

菅原 | 中学生の頃、親の仕事の都合で2年間オーストラリアに滞在しました。高校生活では英語ディベート部に入学し、国内の様々な大会に参加しました。その他にも知識を増やすために本を多く読んだり、帰国後も英語の勉強には力を入れ続け、流暢に話す力を失わないように努力しました。

大学生活はいかがですか？

加藤 | 大学生活一年目は本当に充実した、密な一年でした。専門的な勉強を中心としつつ、教養科目や外国語科目も同時に学習できたことで、広い知識を得ることができました。政治学科ならではの自由度の高い履修を通して得た学びや、新たな交流、環境との出会いによって大きく成長できました。

竹崎 | ドイツ語のインテンシブコースを履修しています。今までドイツ語には触れたことがありませんでしたが、意外と日常にはドイツ語が語源となっているものが多いことを知り、興味を持ちました。インテンシブコースはより確かな言語力と、そこでの国際色豊かな交流ができるのでおすすめです。

将来の夢を教えてください

加藤 | 私はグローバルな社会問題に関わる個人や企業の取り組みに関心があります。環境問題や紛争における課題をより多くの人々が身近な問題として捉えることができる環境づくりの一端を担いたいと考えています。

A

方式

期待するポイント

学業を含む様々な活動実績

- 外国語、芸術、運動等の成績や成果
- ボランティア活動、国際交流等の取り組み

B

方式

期待するポイント

地域代表

- 各地域で個性を発揮、卒業後は出身地域で活躍
- 高校の全期間、指定教科と全体の学習成績の状況が4.0以上

竹崎 | 将来の夢はアナウンサーです。自分の視野を広げた上で、悲しい出来事が繰り返されないように訴えかけていき、画面の向こうの人に寄り添っていきたいと思います。伝える職を通じて、1日を豊かにするお手伝いがしたいと思います。

時々輪 | 法曹に進みたいと考えています。険しい道ではあると思いますが、大学で弁護士や検察官の方々の話をお聞きしてとても魅力的だと感じました。女性の強い味方である弁護士になりたいです。

菅原 | 私の将来の夢は外交官になることです。大学では、グローバルな視野を持って地球規模の課題を解決するためのスキルを高めたいです。

高校生へメッセージをお願いします

加藤 | 受験で壁にぶち当たることは必ずあると思います。そういう時は、自分がこれまで頑張ってきたこと、今後目標としていることを振り返り、「これだ!」というものを是非見つけてみてください。大きい小さいは関係なく、自分にしかできなかったということが最も大切だと私は思います。

竹崎 | 高校生の皆さん。大学は、私が考えるに文字通り「大きく学ぶ場」です。正解か不正解かは大事ではなくて、考えを広く集めること、そして受け入れてくれる大きさも大学特有でしょう。慶應義塾大学は、まさにそのような環境、仲間が多くいます。一緒に慶應義塾大学で、学びを広げていきましょう!!!

法律学科

竹崎 凜太郎 (たけざきりんたろう) さん

宮城県立宮崎大宮高校出身



時々輪 | 日々の生活で大変な事もありますが、自分の進みたい道に一直線に走り続けていれば必ずゴールに辿りつけると 생각합니다。個性溢れた魅力のある方々が慶應義塾大学法学部に入学するのを楽しみに待っています。頑張ってください!

菅原 | 「進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進む」という言葉があります。福沢諭吉先生の格言です。今自分が取り組んでいることを諦めずにやり続け、自分の目標や力を信じて最後まで頑張ってください。努力はいつか必ず報われます。

FIT入試のA方式とB方式

※詳細は「募集要項」を確認してください。

